

## 中国語式英語の考察

沈 瑩

**摘要：**中国語式英語は中国語話者達が英語を勉強する際に広く使用されている言葉である。本稿はその概要として中国語式英語の性質、類型及びその存在の様式を探究するとともに、実際に英語を使う際に、可能な範囲でその中国語式英語の使用を避けかつ減少させていくことについて考察したものである。

**Keyword:** 中国語式英語、英語誤用、母国語

### はじめに

中国語式英語 (Chinglish) とは、中国語話者が英語を使う際に中国語的思考や中国文化を背景にして作られた規範的なものではなく、英語の表現形式とは少し異なる英語のことを指している。これは中国語話者が英語を勉強する過程においてよく見られることであり、ある一時期に学習者の頭の中に位置づけられているものであって、第二言語を学習している人々がよく使う非標準的な英語だと思われる。時にはこの中国語式英語は英語話者にとっては奇妙な言葉に聞こえることもあるが、感情移入 (empathy) の理論に基づけばこれもまた認められることであり、実際の英語の会話の中では広く使われている。しかし、一方ではその非標準的な英語が英語話者の誤解を招くこともあり、相手を傷つけるなど悪影響を及ぼすこともある。このようなことから中国語式英語は母国語からのマイナス干渉の結果として、英語教育の領域で重点的に解決されなければならない問題となっている。ゆえに中国語式英語の性質及びその類型を分析することは、教師がそのメカニズムを把握して、学生の中国語式英語を矯正し、出来るだけ早めに中国人の英語学習者に標準英語をマスターさせることに役立つものと考えられる。

### 中国語式英語の本質及び類型

英国応用言語学者 Corder は次のように考えている：第二言語の学習の過程で生じる言語誤用は避けられない中間過程であり、新しい言語を学習するときに使われる学習ストラテジー (方略) でもある (strategy of transfer)。つまり“第二言語の学習の過程は学習者が母国語の言語系統や完全にマスターできていない目標言語やその文化知識を使って第二言語を理解し、自分なりに第二言語で自分を表現しようとしている学習過程であるといえる。もし母国語の言語体系、規則及び文化背景が少しでも目標

言語と一致するところがあれば、母国語と目標言語の間にプラス転移が起こり、学習者は正確に目標言語を使えることになる。しかし、上記のことが目標言語と異なる場合には、母国語と目標言語の間に誤った転換が生じ、学習者は目標言語を誤用したり非標準的な目標言語を作ったりしてしまうことになる。この理論によると、中国語式英語は中国語話者が英語を学習する際に中国語に影響されることにより生じる異質なものであるということになる。

次に中国語の消極的な干渉から生じた中国語式英語を種類別に分類して分析していくことにする。中国語話者にとって中国語から生じる消極的な干渉は発音、語彙及び文法に見られる。

### (一) 発音からの消極的な干渉

中国語と英語とはその音構造が異なり、発音の仕方にも差異が見られる。中国語話者の英語学習者は英語の音声を学ぶときに、母国語の中にある英語に近い音声を英語の発音として覚えていく。英語の音声は母音と子音に分かれるが、中国語の発音を構成しているのは声母と韻母である。それに加え、中国語には声調が存在している。また中国語と英語の音声の数にも差が存在するなどの違いがある。英語の単母音の数は中国語の韻母の約2倍ある。そして個々の母音の発音には微妙な点での差異があり、また長さにおいては長母音と短母音の2種類がある。たとえば、英語の[i] [ɪ]という母音を発音するときは長母音と短母音を正確に区別しなければならないし、その調音の違いにも気をつけなければならない。中国語話者がこれら二つの音声記号を覚えるときは中国語の音声記号にある i (衣) と間違えやすい。中国語話者には中国語の音声記号の i (衣) が英語の音声記号の[i] とほぼ同じに聞こえるが、実際には[i] とは違う。しかし、中国語の音声には長音と短音の区別がないので、中国語話者の英語初心者は i (衣) を[i] として発音しがちであるし、会話の中では[i] を短母音として発音しがちである。英語は母音の長短によって語の意味が区別されるので、もし長母音を短母音として発音すれば、その語の意味が違ってくる。また、英語の音声の中には/tɹ/と/dɹ/のような破擦音があるが、中国語の音声にはないので、中国語の発音に影響され、中国語話者はこれらの英語の破擦音を二つの音に分けて発音する傾向がある。

### (二) 語調上の消極的な干渉

中国語と英語は発音に関して違うところがあるだけでなく、韻律に関してもそれぞれに規則がある。中国語の音調は単語の一部分を構成することができるので、中国語は声調言語と呼ばれている。つまり中国語の声調は単語の意味にも関わっている。た

たとえば、妈 (ma), 麻 (ma), 马 (ma) 骂 (ma) の例がある。中国語の声調は単語の声調に抑制されているので、文の声調がいくら変わったとしても、単語の声調そのものは変わらない。一方、英語については音調の種類が文あるいは句によって変わっても、その中の単語の意味は変わらない。音調が文と句において欠かせないものであるので、英語は語調言語と呼ばれている。英語は語調によって疑問文と平叙文とが区別されることがあり、会話者の感情や情報を伝えていく。したがって、中国語話者にとって一番難しいのは英語の語調である。例を挙げると次の通りである。

A: Are you busy?

B: No.

という会話でBが“下降調”で答えれば“肯定、時間がある、接待が可能だ”等の意味を表している。もし“文末に上昇調”で答えれば、“肯定ではなく、時間がなくても接待が出来る”という意味を表示している。さらに“下降上昇調”で答えれば、“肯定、ただし接待しないかもしれない”という意味を表す。

### (三) 中国語の語意による消極的な干渉

中国語と英語には、それぞれの語で内包と外延があるので、中国語の語意と英語の語彙に関する対応はかなり複雑である。次に意味範囲、内包意義及び語彙の組み合わせの三つの観点から英語への中国語語意による消極的な干渉について述べることにする。

#### 1 意味範囲の不对応性

まず意味範囲からみると、英狭漢寛と英寛漢狭の2種類がある。たとえば、中国語の中で瓜類の単語を構成するのは“類別+瓜”になっている。つまり西瓜 (すいか)、黄瓜 (きゅうり)、南瓜 (かぼちゃ) 等になるが、英語は別々に *watermelon*, *cucumber*, *pumpkin* になる。中国語の“開車 (運転する)”“開器械 (操作する)”“開後門 (心を開く)”の中では同じの漢字“開”があるが、英語に訳すると次のようになる: *drive a car*, *operate a machine*, *open one's mind*。しかし、中国語話者は中国語の言語知識に左右されているので、次のような英訳を作ってしまう。*Open a car*, *open a machine*, and *open a back door*。また中国語の中で肉類を表示する単語に豚肉、羊肉、鶏肉があるが、英語で言うと *pork*, *mutton*, *chicken* になる。これらのように中国語では一文字なのに英語では複数の文字で単語の意味を表現することを英狭漢寛という。その反対に、英寛漢狭というのは英語では一文字で中国語では複数の文字で単語の意味を表すことを言う。たとえば、英語の *wear glasses*, *wear a hat*, *wear a dress*, *wear a smile* 等を

中国語に当てはめるとそれぞれ“戴”，“穿”“帶”になる。また、“uncle(おじさん)”という単語は中国語では“父の友人で父より年下の男性と父の弟に対する呼び方”だけだが、英語では“夫の兄、母の兄弟、妻の兄弟、夫の父”の意味にもなる。

## 2 内包意味の不对応性

両国間の文化の差異により英語と中国語の語彙に含まれている内包意味がそれぞれ違ってくることもある。色の内包意味を例に取ってみよう。

中国語では、赤色は順調や成功を意味する。たとえば“紅運(いい運氣)”や“紅歌手(良く売れる歌手)”等があるが、英語の紅い色にその順調と成功の意味はない。一方、英語の“藍色”は沮喪と憂鬱を意味するが、中国語にはそういう意味合いがない。たとえば、He is lonesome and blue. また、英語の“dog”と中国語の“狗(犬)”との意味範囲はまったく同じだが、内包意味は違う。中国語の“狗(犬)”はよく“走狗”“狼心狗肺(残忍非道な心)”“狐朋狗友(不良仲間)”等の否定的な意味として使われている。すなわち“犬”という漢字は中国語では嫌がられる下劣な内包意味がある。その反面、英語の“dog”には悪い意味は含まれず、“忠誠、友好、かわいさ”といった意味がある。たとえば、“You are a really a lucky dog”(あなたは本当に幸運児だ)“Love me, love my dog”“It's hard to teach an old dog new tricks”の中の“dog”は貶す意味を持っていない。

## 3 単語の組み合わせの不对応性

中国語の単語の組み合わせを英語に直訳すると、うまく対応しない場合がある。たとえば、中国語の“家庭教師”の英訳は“family teacher”ではなく、“private teacher”，中国語の“紅茶”の英訳は“red tea”ではなく、“black tea”である。また、中国語の“清咖啡”の英訳は“clear coffee”ではなく、“black coffee”である。さらに中国語の文“中国的食品价格很便宜”(中国の食品の価格はとても安い)という文の英訳は中国語話者にとって次のように誤訳されるケースが多い。“The price of food is cheap in China.”この文の英訳に見られる誤りは中国語の表現から生まれたと考えられている。中国語で価格に関する表現は“高(高い)”“低(低い)”“便宜(値段が安い)”“貴(値段が高い)”のようなものであるが、英語では商品のみに関して“cheap”(便宜)あるいは“expensive”(貴)が使われているのである。“price”(価格)を表現するにはただ“low”and “high”でいいとのことである。つまり、前の文に関する正しい英訳は“the price of food is low in China”あるいは“Food is cheap in China.”のようになればよいのである。

以上の誤訳は英語学習初心者の中国語話者が間違いやすいところである。そしてその誤訳を引き出す原因は漢語からの影響を受けた結果と考えられている。

#### (四) 英語と中国語の文の構造における相違

中国語話者は英語に関する知識が限られているので、中国語の文の構造を使って英語を表現する傾向が多く見られる。英語と中国語は文の構造上で似ている部分が存在している。たとえば、英語と中国語は“主語＋述語＋目的語”という文の構造を持っているので、“I like this coat.” (我喜欢这件外套)のような文を作ることが出来る。しかし、英語と中国語の構造にたくさんの差異が存在しているのは事実のことである。次に中国語と英語に存在している構造上の差異をまとめてみることにする。

#### 1 文の構造の相違

英語の時制は合わせて 16 種類、態が能動態と受動態の 2 種類に分けられ、法（語気）に直説法（陳述語気）と仮定法（仮説語気）がある。それぞれの時制が特徴を持って文を構成している。たとえば、現在進行形の構造は“be＋v（動詞）ing”。現在完了形の構造は“have/has＋p.p（過去分詞）。”である。未来形の構造は“shall/will/be going to＋v（動詞）”。したがって、英語では動詞の時制と態を用いて時に関する内容が表現されるが、中国語には英語のような動詞の時制や態がないので、時間を表すには副詞（たとえば“曾经(かつて)”、“正在(…している)”、“已经(既に)”、“将要(…しよう)”という状況語を使うか、あるいは機能語“了”、“着”、“過”を補語として使うかで、動詞の活用はない。ゆえに中国語には過去形を表現する時間副詞と時間状況語と一緒に使う場合がよく見られる。その例として“昨日(yesterday)我曾经(ever)去过公园”と“5年前、他们已经(already)认识(知っている)了”のような文の場合だが、英語では“already”と“ever”は現在完了形と一緒に使うことができるが、過去形の時間状況語と一緒に使うことができない。このことにより、中国語話者は先述の“昨日(yesterday)我曾经(ever)去过公园”と“5年前、他们已经(already)认识了”を次のように誤った形で英訳をする場合が多い。“Yesterday I have been to the park.” “Five years ago, they have known each other” また“我(私)認為(と思う)他(彼)不对(正しくない)”という文を中国語話者は“I think he is not right”に翻訳しやすい。これらのように文の構造の違いが目標言語の学習にマイナス影響を及ぼすのである。

## 2 中国語と英語との語順記列の相違

文の構造から分類すれば、漢語の文型は“主語＋述語”と“主語＋述語文”の2種類であるが、英語の文型は5種類に分けられている。つまり“主語＋述語”、“主語＋叙述語”、“主語＋述語＋目的語”、“主語＋述語＋目的語＋目的語補語”、“主語＋述語＋間接目的語、直接目的語”の5種類の文型である。例を見てみると“①这件事(この事)我(私)是见证人(証人)”と“②那件事(あの事)是他经手办的”のような文の中の“那件事”と“这件事”はそれぞれ大主語になり、受動者の役割を担うが、“我(私)”と“他(彼)”はそれぞれ小主語で、動作の主になる。しかし、英語の中ではこのような構造がないので、このような構造は中国語話者が英訳するときに悪い影響をもたらす原因となりうる。そのような悪影響を受けた場合、上述の①と②の文は次のように誤訳されることとなる。

- 1) This event I am the witness.
- 2) That matter he handled himself

正しい英訳は“主語＋叙述語”と“主語＋述語＋目的語”という形となる。

- 1) I am the witness of this event.
- 2) He is the one who handled the matter.

また、次のような文にも中国語式英語による誤訳がよく見られる。

I have book.  
He have book.  
You yesterday see film?  
I have come here for a year.

正確に英訳すると、次のような文になるべきである。

I have a book. (我有一本書)  
He has a book. (他有一本書)  
Did you see a film yesterday? (你昨天晚上看电影了吗?)  
I have been here for a year. (我来这里一年了)

## 3 中国語と英語間の関連語句の相違

中国語と英語には“原因と結果、譲歩”を意味する関連語句がある。現代中国語では“原因と結果”を表現する関連語句は“因為(because)…所以(therefore)”、“由于(owing)…因此(therefore)”がある；“譲歩”を意味する関連語句は“尽管(although)…但是(but)”，“虽然(even if)…但是(but)”等の連結句併用がある。しかし、英語の文型ではその連結句併用は存在していない。たとえば“原因(reason)と結果(result)”

を表示する文型の中で“reason”と“result”の併用が出来ないので、いずれかを使うしかない。同じように、“譲歩”を意味する文型では、“although”を使うと“but”を併用すると可笑しくなる。中国語話者の英語学習初心者は中国語の影響を受けたために次のような文を作りやすい。

- 1) Because I was very tired, so I fell asleep the moment my head touched my pillow.
- 2) Although I used to watch television a lot, but I hate it now.

(五) 語用論から生じる中国語式英語は次の2種類がある

1) 中国語話者は中国語の言語習慣をそのまま英語に取り入れる傾向があるので、英語の表現方式とは違った英文を作成しやすい。たとえば、

① Teacher: Good morning, students.

Students: Good morning, teacher.

上の英会話は中国語話者の英語学習初心者の間でよく耳にするものである。このような会話を引き起こす原因は中国語からの負移転にあると考えられている。中国語では人を呼ぶときに、よくその人の肩書きを呼ぶ。たとえば、孫老師、王監督、李大工等である。英語で人を肩書きで呼ぶのは、doctor, professor, judge 等だけである。次の例も典型的な中国語式英語である。

② Shop assistant: What do you want?

Foreign tourist:...

この文は“あなたは何かがほしいですか”を機械的に“**What do you want?**”に訳したもので、その問いかけはお客さまにとってサービス業としての問いかけではなく、そのような言い方をすると英語話者には乱暴で礼儀のない言い方と受け取られ、また不快な思いをさせることになる。

③ A: Hello, may I speak to Wangping?

B: I am Wangping.

③のBの回答は中国語話者が電話を受けたときに言う中国語式英語である。この文は英語話者が言うのであれば“**This is Wangping speaking.**”となるであろう。

以上のように中国語式英語は中国語話者の英語学習者の中で数えきれないほど多く使われている。ある人が外国人教師用の控え室を **restroom for foreign teachers** に訳してしまったことがあるが、英語では **restroom** はトイレの婉曲的な表現である。

2) 中国語式英語の原因は学習者が目標言語の社会文化についての理解不足や、母国語と目標言語の間に大きな差が存在していることにありとされている。その中国語式英語も“交際一語用失策”の範疇に属すると思われる。例えば、中国語と英語の文化では、物事に対する価値観が違う。漢語文化圏で重視されていることは多分英語文化圏では重視されないところが、軽蔑されることさえある。例えば、中国人にとって、大学に入学できることは祝うべきことであり、自慢する価値があるものだが、米国では大学での教育を受けるのはごく普通のことであるので、大学に入学することはありません。また、漢語の中では、久しぶりに友達にあうときに、“ちっとも変わらないね”。(You haven't changed much.)”と言って、友達に対し親切感を表す人が多いのに対し、英語圏では変わらないということは決して良い意味ではないのである。

#### おわりに

本論考は中国語の母国語話者が学校で英語学習をする際によく見られる誤用についてその概要をまとめたものである。実際のところ、英語の状況語や各品詞における中国語の母国語話者に共通している英語の誤用はたくさんあると考えられている。その誤用の細部について後日の調査やさらなる分析をした上で、中国語の母国語話者の英語誤用についてもっと詳しくまとめていきたいと思っている。英語誤用に関する精細な研究は今後の英語学習の効率を高めることにつながるものと期待している。

#### 参考文献

- Selinker L: Interlanguage in Contrastive Analysis.  
 Corder, S.P.: The Significance of Learner's Errors, Penguin, 1967.  
 Ellis, R.: Understanding Second Language Acquisition, Oxford, 1985.  
 Selinker L: Interlanguage in Contrastive Analysis, Oxford, 1984.  
 Corder, S.P.: Introducing Applied Linguistics, Penguin, 1967.  
 何自然: 『語用論概論』、湖南教育出版社、1988。  
 桂詩春: 『心理言語学』、上海外国語教育出版社、1985。  
 胡文仲: 「言語習得と外国語教授—評価 Stephen.D.Krashen の外国語教授に関する原則と想像」、『外国語』、1984 第 1 期。  
 呂叔湘: 『中国人が英語を学ぶ』、開明出版社、1947。